

ハイクオリティ型プログラムの概要

研修の特色とスケジュール

糸魚川総合病院を初期臨床研修の基幹型病院とし、研修前半の10ヶ月を当院の協力型病院である練馬光が丘病院で研修し、後半14ヶ月を糸魚川総合病院（12ヶ月）、地域医療（当院以外で1ヶ月）、精神科（当院以外で1ヶ月）で研修するプログラムです。

糸魚川総合病院は新潟県西部の糸魚川市に位置する病床数261床の中規模病院です。三方を山に一方を海に囲まれた糸魚川地域唯一の総合病院として、この地域で発生する全ての患者さんの1次2次救急を受け入れていることから、その窓口となるER・総合外来（地域救急センター）ではプライマリケアとして様々な疾患を幅広く経験することができます。このような医療環境にある当院で、研修医の皆さんにより多くの症例のプライマリケアをしていただき、より高い質で知識や技術を習得してもらうため、他の病院にはない以下のプログラムを用意しています（コンセプト参照）。さらに唯一の総合病院であることから、ER・総合外来で診察した患者さんをそのまま当院で入院加療を継続する方も多く、初期対応した患者さんのその後の専門的治療の結果に至る一連の医療を研修することもできます。コンパクトな病院であるからこそ、研修医の皆さんの能力に応じた上級医の指導のもと、診断から治療、そして地域密着病院として退院後の社会的支援も含めた全人的な医療を研修していただきます。

<コンセプト：自然と身につく質の高いプライマリケア能力>

- ①ER・総合外来研修を週に午前1回午後1回、年間通して行っていただく。
- ②午後5時から午後10時までのER・総合外来当直研修を月3回行っていただく。
- ③ ①や②で経験した症例を用いた臨床推論に月5回参加する。
- ④ ①や②で経験した症例の振り返りを週3回行う
- ⑤診断学に長けた有名外部講師を招いての特別プログラムを月1回開催する。

練馬光が丘病院は70万人以上の人口を有する東京都練馬区の中央近くに位置し、「救急総合診療」と各診療科領域の「専門診療」の両方で高度な医療を提供する457床の地域の中核病院です。初期臨床研修としては、総合診療科での診断学を通じたプライマリケアや、救急専従医が成人救急の全初療を担う救急部での研修、さらにはほぼすべての診療科で研修施設として学会から認定を受けている充実した研修環境で学ぶことができます。

この「ハイクオリティ型」プログラムでは、先進的な練馬光が丘病院での研修を当院を基幹型として選択することで優先的に受けることができます。初期臨床研修スタートの10ヶ月を練馬光が丘病院で総合診療科を含めた高いレベルの研修で個の実力をつけていただき、後半では様々な疾患を経験できる独自のプログラムをもつ糸魚川総合病院で地域医療に根ざした全人的医療を研修していただくことで、医師として広くて大きいしっかりとした礎を築くことができるプログラムとなっています。

スケジュール例

1年次

1-4週	5-8週	9-12週	13-16週	17-20週	21-24週	25-28週	29-32週	33-36週	37-40週	41-44週	45-48週	49-52週
内科						救急		産婦人科	小児科	外科	精神科	
練馬光が丘病院												※

2年次

1-4週	5-8週	9-12週	13-16週	17-20週	21-24週	25-28週	29-32週	33-36週	37-40週	41-44週	45-48週	49-52週
整形外科							地域医療					
糸魚川総合病院							※	糸魚川総合病院				

※練馬光が丘病院以外の協力病院、協力施設にて研修

研修病院/施設

基幹型病院：糸魚川総合病院

協力病院：練馬光が丘病院、新潟大学医歯学総合病院、富山大学附属病院
さいがた医療センター、新潟県立柿崎病院

協力施設：糸魚川保健所、能生国民健康保険診療所

研修期間 2年間で充てます。

募集定員 1名

プログラム責任者

澤田成朗（外科部長）をプログラム責任者、中田直克（内科部長）を副プログラム責任者とします。

指導体制

指導医—上級医—研修医の序列で指導にあたることを原則とします。診療科目や施設によっては、指導医—研修医で診療にあたることもあります。ローテーションの終了ごとに研修医の自己評価と指導医による評価を行い、研修の到達度を把握し、必要に応じて研修内容の見直しをします。

指導医

診療科ごとに指導医が配置されています。

研修管理委員会

研修を円滑、適切に行う目的で、研修管理委員会を設置します。
研修管理委員会は初期臨床研修を統括する役割を担い、研修の過程で生じた問題について、包括的な解決をはかります。